

活用事例①

横浜市立盲特別支援学校
露崎 謙治・井上 早紀

■活動した学年：小学部5年生

■主障害名：第1次硝子体過形成遺残

■各教科等名：自立活動

■学習形態：複式・個別学習

■本の名前：

『うらしまたろう』

『方言と共通語』

■対象となる児童・生徒の実態

対象児童は、日本史や宇宙科学、生き物などが好きな弱視児童である。読み書きでは墨字を使用しており、授業を通して教員が紹介した本を読んだり、自分で歴史に関する本や伝記、図鑑などを读んだりしている。日本の昔話などはあまり読んだ経験がなく、タイトルは知っているものの、内容を尋ねると「うーん…」と言葉に詰まっていた。そこで、自立活動の時間を使ってマルチメディアDAISYの操作方法を学習し、有名な日本の昔話や、本児童の興味のある本を読む活動を行った。

■学習のねらい

- ・パソコンを用いたマルチメディアDAISY図書の操作を覚え、読みたい本を読むこと。
- ・iPadのボイスオブデージー（VOD）

の操作を覚え、データから読みたい本を探して読むこと。

- ・VODの声の速さや文字の色を変えるオプション操作を覚えること。

■使用した道具・機材

- ・パソコン ・わいわい文庫CD
- ・iPad ・アプリ（VOD）

■実際の様子について



初め、教員が『うらしまたろう』『いっすんぼうし』『ももたろう』の3つの話

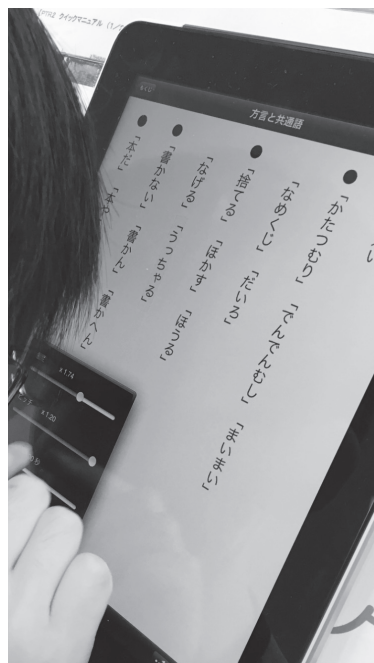
を提示し、本児童が『うらしまたろう』を選択した。

パソコンとiPadのいずれの場合も、声の大きさや読み上げ速度、文字の色、背景の色を変えるオプション操作を本児童に教えると、すぐに自分の最適な設定を見つけて読んでいた。数回されると操作に慣れた様子で、自分から読みたい本を探して喜んでいました。

初めに画面の大きいパソコンで操作や機能の概要を知り、つぎにiPadで読むようにすると、使い方がよりわかりやすいようであった。読み終えた本児童は、「耳と目の両方で話がわかる」「読んでいる部分に色がついて見やすい」と、良さを実感した様子だった。

■本に対する情報提供など

本校の図書館では、マルチメディアDAISY図書の閲覧専用のパソコンを設けており、VODのアプリが入ったiPadを3台設置している。児童がいつでもマルチメディアDAISY図書を使用することができる環境を整えている。



今回読んだ『方言と共通語』は、以前小学校5年生の国語の教科書に載っていたものである。本児童は日頃から言葉の訛りに敏感で、標準語でない独特の言葉に否定的な様子が見られる。この図書を読むことで、方言のもつ温かみ、地域の歴史や文化とのかかわりを知り、土地に根ざす言葉の良さを知ってほしいと考えた。